



地域で制度的な差別によって苦しんでいる人が周りにいることを考えていただきたい。そういう理解がない限りみんな一緒というわけにはいかないと思います

プロフィール

1949年滋賀県生まれ。朝鮮人、在日一世である両親は、戦火をさけて滋賀に疎開し、戦後も定住した。長女に障害があったことから、90年頃より在日障害者・高齢者の無年金問題に取り組む。
02年NPO法人滋賀コリアン生活サポートセンターの設立に参加。介護保険のヘルパーとして働く一方、月1回の在日高齢者交流会をボランティアとして続けている。

「けなり」とは「れんぎょうの花」の意と聞きましたが、どうしてこのお名前を付けられたのですか。

“けなり”は朝鮮半島の春を告げる花で「ソウルは“けなり”の都」と言われており3月頃から咲き始める寒さに強い花なのです。庶民の花とされ、地域で活動する自分たちに合っているな、と感じたからです。

全さんが「デイサービスけなり」の仕事を始められたきっかけは。

わたしの長女に障害があり、養護学校の親の会で年金がもらえなくて困っている朝鮮籍の方と出会いました。年金問題は全然分かりませんし、相談する先が無くて困っているときにニュースで兵庫の「無年金問題」が報じられ、連絡を取り始めたのがきっかけです。滋賀でも無年金問題を考えるために会を作ることとなり、92年大津・野洲・近江八幡で行政交渉を始めた動きが徐々に県内に広がっていきました。在日無年金者給付制度ができ、これまで知らなかった特別児童手当を受けられるなど成果が得られてくうちに、活動の核（場）を持ちたい、会の若い人を育てたい、全国的にネットワークを組んでいきたい、という思いが生まれました。2002年から比較的交通の便がよい膳所で在日の方が気軽に来られる1日お楽しみ会という交流会から「デイサービスけなり」を始めました。

日本のデイサービスと「けなり」の違いは何ですか。

在日の高齢者が言われるには、日本のデイサービスに行くと、日本の歌を歌ったり、お手玉をしたり、昔から馴染みのあることをしましょう、と言われるのですがそれでも日本人と朝鮮人では生きてきたベースが違うので、なかなか楽しむことが出来ません。自分の今までの生活がある程度守りながら、介護者の力を得ながら最後まで自分らしく生きる、自分の家で自分らしい生活をする、ということが在日の場合はものすごくぜいたくなことなのです。

「けなり」ではどのような活動を行っていますか。

送迎、入浴、食事などの介護保険で決められていることすべてをやっています。スタッフは常勤が3名で後はボランティア、

ヘルパー資格を持っておられる方など、1日4～5人です。契約しておられる方は7人ですけれども、現在利用者は大体週で延べ13～14人です。もう少し利用者が増えないと経営は難しいです。ここへ遊びに来たい方はいっぱいいます。ただみんなお金がないから行かない、お金があったら行きたいということです。経済的な問題がものすごく壁になっています。

今までの「けなり」の活動をふりかえって、また今後の活動をお聞かせください。

これからは原点に戻り障害者も支えたい。障害者を社会で支えることが必要だという信念があります。家庭だけにすべてを背負わせることはすべてをだめにします。結局は障害者が不幸になるのです。家族だけしかいなかったら、障害者が非常に不幸であると私は娘を見ていて思います。「けなり」は障害者の事業もすることになっていて、ここを基にしてやっていけるめどが付いたということがうれしいです。

もう一つはわたしの生まれたところは炭坑があって戦時中などは朝鮮の人がたくさんその炭坑で働いていましたがやはり貧しかった。貧しい朝鮮人への差別が定着しているような所でした。日本人には自分達の苦しさは分かってもらえないという思いで、日本人を信じられない気持ちがあったのです。しかし、兵庫のニュースをきっかけにどんどん日本人と接していくうちに、わたし自身が真の多文化共生というのは何かという認識が遅れていたということを感じ、わたしの中に偏見があったと思ったのです。それを知ったこと、つまりみんなと一緒にやっていける、地域の力でここ膳所で一緒にやっていける、そして在日の人を支える、その確信が持てたことがわたしはうれしいです。

韓流ブームも起こりましたが。

わたしは韓国ドラマは見ないのですがワールドカップでは若い人の大きな力が動いている、という気がしました。わたしたちが育ってきた時代とはまた違う感じがします。韓流ブームは広がっていますが在日に対する差別は今もあります。この機会に在日の問題に関心を持っていただきたい。「韓流にはまっている＝在日朝鮮人を差別していない」ではないと思います。

滋賀県の人にメッセージをお願いします。

やはり社会保障の面でまだ制度的な差別が残っています。地域で制度的な差別によって苦しんでいる人がまだ周りにいることを考えていただきたいなと思います。そういう理解がない限りみんな一緒というわけにはいかないと思います。



「デイサービスけなり」

NPO法人滋賀コリアン生活サポートセンターが行うデイサービス。在日コリアン高齢者のニーズに合った事業をモデル的に実施しながら、その民族的固有性に配慮した援助を行う。
また障害者や子どもたちとの交流を通じ、地域において在日コリアンの問題の理解を深めている。入浴、給食、送迎などのデイサービスに加え、月1回、在日コリアン高齢者のための1日お楽しみ会を開く。

「無年金問題」

1959年に導入された国民年金は在日外国人の加入を認めていなかった。1982年に難民条約が批准され在日外国人も年金が給付される事になったが、この時点で20歳以上の障害者および60歳以上の高齢者は給付の対象外とされた。